

むすぶ

弥彦村社会教育だより

令和3年12月24日 NO.23
弥彦村社会教育委員の会

《第7回弥彦村地域づくり交流会》

11月27日（土）、弥彦村役場大ホールで、「教育フォーラム」に引き続き、午後1時半から第7回「地域づくり交流会」を開催しました。今回は中学生4人、小学生1人を含む37人の参加がありました。

第1部では「あいさつスローガンコンクール表彰式」を行いました。すでに全世帯に短冊状のスローガンポスター3枚が届けられていますが、村長賞・教育長賞・公民館長賞の受賞者3名と、優良賞3名が表彰されました。記念撮影が済むと受賞者には会場から盛大な拍手が送られました。



＜写真前列左から、木戸知佳子さん（公民館長賞）、柳川恵梨華さん（村長賞）、渡辺昊大さん（教育長賞） 後列左から、林教育長、内藤瑠南さん（優良賞）、船山凜太郎さん（優良賞）、渡辺社会教育委員長＞

第2部はこれまで取り組んできた「あいさつ運動」、「第2回PR動画コンクール」（表彰式は10月24日に実施済）についての取組説明をしました。時間の都合上、PR動画の受賞作品の一部だけが上映されました

第3部は6グループに分かれてのグループ協議です。テーマは「みんなが楽しめるイベントを企画しよう！」でした。マスクを着用し、各グループとも活発な意見交換が行われました。その後、他グループではどんな意見があるかを知るため、時間を区切ってテーブル間を移動しました。模造紙にまとめられた他グループの意見や提案を見て、グループ内の社会教育委員からの説明を受けて、共感する意見や提案には「いいね！」を表す赤丸シールを貼りました。



グループ協議の様子

オフシーズンにも観光客を呼び込むイベントを工夫したい。弥彦産の農産物や製品を使い、村民自ら運営し、楽しむイベントをしたい。他にも様々なアイデアが出ました。特に村の未来を担う小中学生の積極的な意見が印象に残りました。

アンケートには、参加して「とても良かった」79%、「良かった」21%でした。また、来年の交流会には「積極的に参加」62%、「参加したい気持ちがある」38%でした。例年以上に協議が盛り上がり、参加者の満足度が高かった交流会でした。

出されたアイデアは、後日、社会教育委員の会で審議し、公民館とタッグを組んで、令和4年度のイベント実現を目指します。
(文責 柏原路)

《第2回弥彦PR動画コンクールを終えて》

令和3年9月1日～9月30日に開催した『PR動画コンクール』では、動画部門（短編・長編）、キャッチコピー部門、で合計20作品の応募があり、10月12日の実行委員による厳正なる審査の結果、各部門3作品ずつ優秀作品が選ばれ、10月24日には、弥彦総合文化会館小ホールにて、賑やかに表彰式が行われました。協賛してくださった各企業様、実行委員の皆様、応募してくださった皆様、今回のコンクールに携わってくださった全ての皆様のおかげで、無事にコンクールを開催出来たことをこの場をお借りして感謝申し上げます。（文責 那須）

実行委員でありながら、わたし自身、今回の企画に関わっていくなかで、弥彦の良さを再発見出来ました。ありがとうございました。

（梨本 雄哉：矢作 法園寺）



少しでも弥彦村の為になればと思い実行委員になりました。会議には仕事の都合でなかなか出席できなかったのですが、審査をした際、責任感と弥彦村をこれほどに思っている人たちがいることにうれしくなりました。ありがとうございました。（本多 宏之：(有)本多ファーム）



私自身弥彦村に大変お世話になっており、実行委員として参加させてもらい、普段の映像制作や印刷物などを扱っていることを活かし、第二回コンクールのポスターを作成させていただきました。実は、第一回コンクール時は応募しようとしていた側でした。残念ながら都合がつかず、応募できなかったのですが、縁あって、実行委員となり、携わる側になるとは思ってもいませんでした。そして、自分の作成したポスターが村内に掲示された時は、とても嬉しかったのを覚えております。微力ながら貢献できたことを感じた瞬間でした。動画作品はそれぞれ個性があり、どれも弥彦愛を感じる作品でした。皆様のご協力により、無事コンクールを成功させることが出来ましたことを、心よりお礼申し上げます。



（y・yamazaki：YAHIKOFUN）

入賞者は、前列左から、
梨本美沙子氏（キャッチコピー：やひこの農業まもるんじゃー賞：マメに会いにきてね、弥彦村）
忠地和可子氏（動画短編：社会教育委員長賞）
外山尚子氏（動画長編：大鳥居賞）
石橋勝行氏（キャッチコピー：おもかる石賞：おかげ様、伊夜日子様）
合同会社ジープラン様（動画長編：弥彦温泉賞）
板倉登茂子氏（動画短編：もみじ谷賞）
後列左から、林教育長、弥彦温泉賞出演者、いちごピンク



表彰式記念撮影

《あいさつ運動進捗状況》

弥彦村社会教育委員の会では、平成27年から「地域づくり交流会」を開催しています。今年で7回目を数える交流会は、毎年、様々なアイデアが出されます。その中の一つに「あいさつ運動」がありました。令和元年度の交流会で「あいさつ運動」を実現するための協議を行いました。参加者から「ぜひ、実現してほしい」との要望を受けて、社会教育委員の会が中心となって推進することになりました。交流会での意見を生かし、推進5年計画を作成しました。活動開始を令和2年度としましたが、新型コロナウイルス感染症により、活動できない状況になり、計画が頓挫してしまいました。1年先延ばしで、今年度から活動を開始しました。

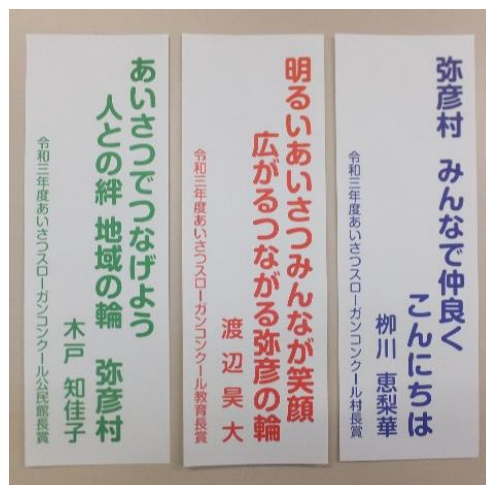
1年目は、この運動の趣旨を村民に周知することを一番の目的としました。あいさつ運動で目指す姿を ①家の中で明るくあいさつを交わす村 ②地域の中で当たり前にあいさつを交わす村 ③弥彦を訪れる人が気持ちの良いあいさつが交わされていると感じる村の3点として、「**明るく・気軽に・爽やかに**」を合言葉に活動を始めました。

活動は「できることから取り組もう」と考え、最初に行ったのが、「あいさつ運動スローガン」の募集でした。募集期間を7月末から8月末までの1ヶ月間として、小中学生全員に募集チラシを配り、村広報誌、村ホームページ、「むすぶ」等で、村民に応募を呼びかけました。結果的には29作品の応募があり、委員の会で厳正に審査し、6作品を入賞作品に選出しました。（優良賞は、小学生船山凜太郎さん「『ありがとう』言って言われてみんながえがお」中学生内藤瑠南さん「挨拶はあなたと私の合言葉」一般山崎鉄也さん「挨拶は 幸せつなぐ 心と心」の3作品です。）

そして、11月を「あいさつ強調月間」に位置付け運動を推進しました。まず、スローガンの3優秀作品を短冊形のポスターにし、あいさつ運動の趣旨の説明とスローガン応募作品全てを掲載したチラシと併せて、村内全戸に配付しました。ポスターを家庭内に掲示してもらうことで、「あいさつ運動」について関心をもってもらい、運動に協力してもらおうと考えました。村民の民さんのお宅には、ポスターが掲示されているでしょうか。

今年度の取組の検証は、これからになりますが、多く人の声を吸い上げて、次年度以降の運動に生かしていきたいと思っています。

(文責 渡辺)



スローガンポスター

《おわび》

前号の掲載記事に誤りがありました。あいさつ運動スローガンの入賞者で、作品「挨拶は 幸せつなぐ 心と心」が優良賞を受賞されましたが、作者名が違っていました。「永島通子」とありましたが、正しくは「山崎鉄也」さんです。お二人には、大変ご迷惑をおかけしました。お詫びして訂正いたします。

《弥彦村スポーツ少年団交流会が開催されました》

令和3年12月18日（土）、弥彦中学校体育館にて「弥彦村スポーツ少年団交流会」が開催されました。全9団あるスポーツ少年団の子どもたちとその保護者、そして指導者同士がレクリエーション等を通じて、互いに楽しく交流することが交流会の目的です。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりましたが、2年ぶりとなった今年度の交流会には150名以上の参加がありました。

内容は、『インドアペタンク選手権』と恒例の『大ビンゴ大会』です。インドアペタンクは、普段、学校体育や各団ではやらないようなニュースポーツで、ほとんどの子どもたちが初めてプレーするものでした。時折歓声を上げたり、上手なプレーヤーに拍手を送ったりと、それぞれ興味関心を持って楽しんでいる様子が伺えました。



交流会案内チラシ



交流会の様子

普段は皆それぞれ違う種目に汗を流していますが、年に1回、こうしてスポーツ種目の枠を超えた交流会を行うことで、スポーツを通じた社会のつながりを築くことができます。弥彦村スポーツ少年団は、スポーツに興味のある子どもたちをいつでもお待ちしております。(文責 徳永)

問合せ先：弥彦村スポーツ少年団
事務局（94-4311）

委員長 渡辺 和也（矢作） 副委員長 柏原 路子（麓二区）
 委員 那須裕美子（川崎） 河井 昌之（弥彦中校長） 半間 義之（矢作）
 石井 亘（井田） 阿部 朗子（弥彦） 柏原 貴也（麓二区）
 石塚 孝也（矢作） 東樹 薫（美山）
 事務局 堀 隆行・徳永 拓実（教育課）

※ ご意見、お聞きになりたいことがある方は、近くの委員、もしくは、教育課事務局にお電話ください。（事務局94-4311）